

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-200319

(P2014-200319A)

(43) 公開日 平成26年10月27日(2014.10.27)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 3 B 17/16 (2006.01)	A 4 3 B 17/16	4 F 0 5 0
A 4 3 B 7/34 (2006.01)	A 4 3 B 7/34	

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2013-76138 (P2013-76138)	(71) 出願人	513083956
(22) 出願日	平成25年4月1日(2013.4.1)		前澤 篤義
			奈良県香芝市藤山2丁目1101-24
		(74) 代理人	100080746
			弁理士 中谷 武嗣
		(72) 発明者	前澤 篤義
			奈良県香芝市藤山2丁目1101-24
		Fターム(参考)	4F050 AA07 EA02 EA03 HA28 HA53
			HA55 JA25 LA02

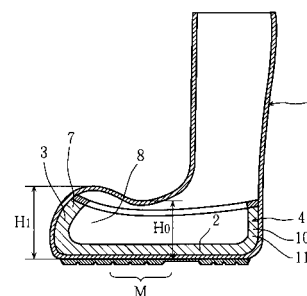
(54) 【発明の名称】 長靴

(57) 【要約】

【課題】 冬場に足のつま先が冷えることを防止できる長靴を提供する。

【解決手段】 長靴本体1の内部に、ソール壁部2とつま先被覆部3を一体に備えた内装体4を取外し自在に収納する。内装体4は、交換自在な冬用温感内装体と夏用冷感内装体から成る。長靴本体1のつま先先端部7の最大高さ寸法 H_1 を、長靴本体1の前後中間部Mの最小高さ寸法 H_0 の1.2倍以上 1.5倍以下に設定し、かつ、つま先先端部7の最大幅寸法を、長靴本体1の前後中間部Mの最小幅寸法の1.2倍以上 2.0倍以下に設定し、つま先先端部7の内部空間8を膨出状とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長靴本体（１）の内部に、ソール壁部（２）とつま先被覆部（３）を一体に備えた内装体（４）を取外し自在に収納したことを特徴とする長靴。

【請求項 2】

上記内装体（４）は、交換自在な冬用温感内装体（５）と夏用冷感内装体（６）から成る請求項 1 記載の長靴。

【請求項 3】

上記長靴本体（１）のつま先先端部（７）の最大高さ寸法（ H_1 ）を、上記長靴本体（１）の前後中間部（ M ）の最小高さ寸法（ H_0 ）の 1.2 倍以上 1.5 倍以下に設定し、かつ、上記つま先先端部（７）の最大幅寸法（ W_1 ）を、上記長靴本体（１）の前後中間部（ M ）の最小幅寸法（ W_0 ）の 1.2 倍以上 2.0 倍以下に設定し、上記つま先先端部（７）の内部空間（８）を膨出状とした請求項 1 又は 2 記載の長靴。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、長靴に関する。

【背景技術】

【0002】

一般に、長靴はゴム又は樹脂から成る（例えば、特許文献 1 参照）。

20

【0003】

しかし、冬場等に足のつま先が冷えるという欠点があった。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開平 2012-34714 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

解決しようとする課題は、冬場等に足のつま先が冷える点である。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

そこで、本発明に係る長靴は、長靴本体の内部に、ソール壁部とつま先被覆部を一体に備えた内装体を取外し自在に収納したものである。

また、上記内装体は、交換自在な冬用温感内装体と夏用冷感内装体から成るものである。

また、上記長靴本体のつま先先端部の最大高さ寸法を、上記長靴本体の前後中間部の最小高さ寸法の 1.2 倍以上 1.5 倍以下に設定し、かつ、上記つま先先端部の最大幅寸法を、上記長靴本体の前後中間部の最小幅寸法の 1.2 倍以上 2.0 倍以下に設定し、上記つま先先端部の内部空間を膨出状としたものである。

40

【発明の効果】

【0007】

本発明の長靴によれば、冬場に足のつま先が冷えることを防止できる。また、夏場は、涼しい長靴とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】本発明の第 1 の実施の形態を示す断面側面図である。

【図 2】平面図である。

【図 3】冬用温感内装体を示す斜視図である。

【図 4】夏用冷感内装体を示す斜視図である。

50

【図 5】本発明の第 2 の実施の形態を示す断面側面図である。

【図 6】冬用温感内装体を示す斜視図である。

【図 7】夏用冷感内装体を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下、図示の実施の形態に基づいて本発明について詳説する。

図 1・図 2 は、本発明の第 1 の実施の形態を示し、この長靴は、長靴本体 1 の内部に、ソール壁部 2 と周囲被覆部 10 を一体に備えた内装体 4 が取外し自在に収納される。周囲被覆部 10 は、つま先被覆部 3 及びかかと被覆部 11 を含む。内装体 4 は、交換自在な冬用温感内装体 5 (図 3 参照) と夏用冷感内装体 6 (図 4 参照) から成る。冬用温感内装体 5 は、
10 保温性の高い材料 (断熱素材、保温素材) から成る。冬用温感内装体 5 は、例えば、ウール、厚手の編地等から成る。夏用冷感内装体 6 は、例えば、樹脂又はゴムから成り、通気性がある形状とするのが好ましい。

【0010】

つま先先端部 7 の内部空間 8 が膨出状とされる。具体的には、長靴本体 1 のつま先先端部 7 の最大高さ寸法 H_1 が、長靴本体 1 の前後中間部 M の最小高さ寸法 H_0 の 1.2 倍以上 1.5 倍以下に設定される。最大高さ寸法 H_1 及び最小高さ寸法 H_0 は、中央線 L_0 上での高さを言うものとする。最大高さ寸法 H_1 が上記範囲にある場合、内装体 4 を適切に配設することができる。最大高さ寸法 H_1 が、最小高さ寸法 H_0 の 1.2 倍未満の場合、内装体 4 を収納することができない (内装体 4 の厚さが不十分になる)。最大高さ寸法 H_1 が、
20 最小高さ寸法 H_0 の 1.5 倍を超える場合、不必要に内装体 4 の厚さを厚くしなければならない。

【0011】

さらに、長靴本体 1 のつま先先端部 7 の最大幅寸法 W_1 が、長靴本体 1 の前後中間部 M の最小幅寸法 W_0 の 1.2 倍以上 2.0 倍以下に設定される。最大幅寸法 W_1 が、上記範囲にある場合、内装体 4 を適切に配設することができる。最大幅寸法 W_1 が、最小幅寸法 W_0 の 1.2 倍未満の場合、内装体 4 を収納することができない (内装体 4 の厚さが不十分となる)。最大幅寸法 W_1 が、最小幅寸法 W_0 の 2.0 倍を超える場合、不必要に内装体 4 の厚さを厚くしなければならない。

【0012】

図 5～図 7 は、第 2 の実施の形態を示す。内装体 4 が、ソール壁部 2 とつま先被覆部 3 とから成る。その他の構成は、第 1 の実施の形態と同様である。

【0013】

なお、本発明は、設計変更可能であって、例えば、冬用温感内装体 5 のみを備えるも良い。また、図示省略するが、冬用温感内装体 5 の下面側にカイロを挟んで履くように構成するも良い。

【0014】

以上のように、本発明は、長靴本体 1 の内部に、ソール壁部 2 とつま先被覆部 3 を一体に備えた内装体 4 を取外し自在に収納したので、内装体 4 の種類を選択することにより、つま先を温かくする冬用としたり、つま先を冷やす夏用とすることができる。また、内装体 4 を取外して洗うことができる。
40

また、内装体 4 は、交換自在な冬用温感内装体 5 と夏用冷感内装体 6 から成るので、冬用温感内装体 5 と夏用冷感内装体 6 とを交換することにより 1 年を通じて用いることができる。

【0015】

また、長靴本体 1 のつま先先端部 7 の最大高さ寸法 H_1 を、長靴本体 1 の前後中間部 M の最小高さ寸法 H_0 の 1.2 倍以上 1.5 倍以下に設定し、かつ、つま先先端部 7 の最大幅寸法 W_1 を、長靴本体 1 の前後中間部 M の最小幅寸法 W_0 の 1.2 倍以上 2.0 倍以下に設定し、つま先先端部 7 の内部空間 8 を膨出状としたので、内装体 4 を適切に配設することができる。言い換えると、内装体 4 の厚さを適切に設定することができる。即ち、冬用温感内
50

装体 5 の厚さを十分な保温性を有するほど厚くすることができるとともに、夏用冷感内装体 6 の厚さを十分な通気性を有するほど厚くすることができる。

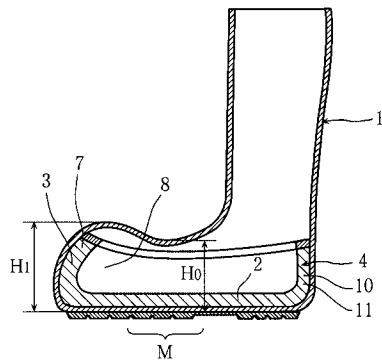
【符号の説明】

【 0 0 1 6 】

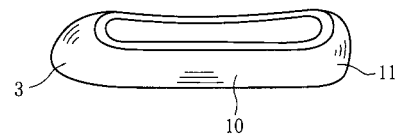
- 1 長靴本体
- 2 ソール壁部
- 3 つま先被覆部
- 4 内装体
- 5 冬用温感内装体
- 6 夏用冷感内装体
- 7 つま先先端部
- 8 内部空間
- H_0 最大高さ寸法
- H_1 最小高さ寸法
- M 前後中間部
- W_0 最大幅寸法
- W_1 最小幅寸法

10

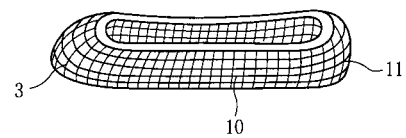
【図 1】



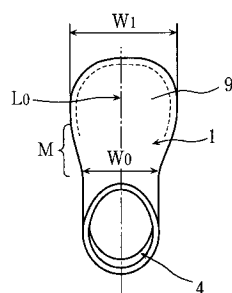
【図 3】



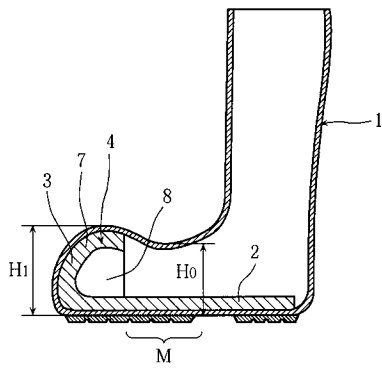
【図 4】



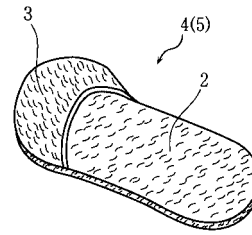
【図 2】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

